



## アジア・国際経営戦略学会 (AIBS)

### 「AIBS アジアエグゼクティブセミナー」

### ASEAN ビジネス・成長への活路を探る — ハノイ・バンコクセミナー —

#### 【ハノイセミナー】

開催日: 2014年8月23日(土)

時間: 15:00~17:30

会場: ホテル ニッコー ハノイ「さくらB」

84 Tran Nhan Tong Street, Hanoi, Vietnam

TEL +84-4-3822-3535 FAX +84-4-3822-3555

参加費: 12,000円(事前振込)

#### 【プログラム】

15:00~15:10 ご挨拶

池島 政広氏 (AIBS 学会会長、アジアコンテンツビジネス研究会会長、経済産業省産業構造審議会新成長政策部会経営・知的資産小委員会委員長)

15:10~16:00 特別講演

#### 「フォスター電機のベトナム事業展開と人材」

【講演者】金井直樹氏 (FOSTER VIETNAM GROUP CHAIRMAN)

16:10~17:00 特別講演

#### 「共英製鋼のベトナム事情展開と人材(仮)」

【講演者】山 川 薫 氏 (キョウエイ・スチール・ベトナム社代表者)

17:00~17:10 閉会の辞

後藤康浩氏 (亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科客員教授・日本経済新聞社編集委員)

18:00~20:00 懇親会(事前登録必要)

レストラン「LE TONKIN」ベトナム料理、ホテルから送迎バスが出ますので、セミナー後、ロビーにて集合ください。

日中、日韓の政治関係が冷え込む中、日本企業はASEANに熱い視線を注いでいる。

日本経済は急速に、ASEANとの結びつき強化しており、それがASEAN経済を押し上げる原動力にもなっている。中でも、ベトナムとタイは、日本からの直接投資も大きい。ベトナムの直接投資残高は急速に伸びており、タイはすでにアジアでは中国に次いで第2位の残高となっている(JETRO (2014)「日本の直接投資残高」<http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/fdi/>)。

しかし、こうした注目の両国も、一本調子には発展し得ない。対中関係の悪化や TPP 交渉で問題となっている国営企業を多数抱えるベトナム。

国内政治情勢の不安定化は、外国企業のタイ進出に二の足を踏ませている。

そこで今回のアジア・国際経営戦略学会「AIBS アジアエグゼクティブセミナー—ハノイ・バンコクセミナー—」は、ASEANの中でも注目度の高いベトナム・タイにおいて、いかにして企業は活路を見出し得るのか、そのヒントを探ってまいります。

ハノイセミナーでは、ベトナム事業展開に必須の人材の育成を中心に、バンコクセミナーではタイ・ASEANの経済的な状況と課題を把握したうえでバンコクとその他のASEAN都市との比較に基づいて、日本企業の活路を論議いたします。会員・関係諸氏の積極的なご参加を期待しております。

#### 【バンコクセミナー】

開催日: 2014年8月25日(月)

時間: 15:00~17:30

会場: ソフィテル バンコク スクンビット「SALON4」

189 Sukhumvit Road Soi 13-15 Klongtoey Nua Wattana,

Bangkok, 10110, Thailand

TEL :+66-2-1269999 FAX +66-2-1269998

参加費: 15,000円(事前振込)

#### 【プログラム】

15:00~15:10 ご挨拶

池島 政広氏 (AIBS 学会会長、アジアコンテンツビジネス研究会会長、経済産業省産業構造審議会新成長政策部会経営・知的資産小委員会委員長)

15:10~16:00 特別講演

#### 「タイ・ASEANの経済状況と課題」

【講演者】田中一史氏 (JETRO バンコク事務所次長)

16:10~17:00 特別講演

#### 「ASEAN都市間の競争力比較」

【講演者】後藤康浩氏 (亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科客員教授・日本経済新聞社編集委員)

17:00~17:10 閉会の辞

安登利幸氏 (AIBS 学会評議員、亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科委員長)

17:30~19:30 懇親会(事前登録必要)

ホテル内で開催いたしますので、セミナー終了後、誘導させていただきます。

【参加申し込み方法】学会事務局宛電子メール (aibs@saibs.org) にて、セミナー・懇親会・工場見学の参加有無を、月日までに、お知らせください。(ご氏名、ご所属明記) なお、参加費 12,000円(ハノイ)、15,000円(バンコク)を、以下のいずれかの口座(日中平和観光社口座、担当:今井 imai@nicchu.co.jp)に、8月10日までに、お振り込みください。

三井住友銀行 丸の内支店 当座 6550815 ニッチュウヘイワカンコウ(カ)  
三菱東京UFJ銀行 東京営業部 当座 0079584 ニッチュウヘイワカンコウ(カ)

#### 【同時企画】工場見学会

8月22日(金) ハノイ (セミナー前日):

※8時20分集合

- ◆ リコーイメージング (Plot A7, Sai Dong B, Industrial Zone, Long Bien District, Tel : (84) - 4 - 3875 - 0418 ~20)
- ◆ フォスター電機 (No 1, Street 11, VSIP Bac Ninh, Tu Son Town, Bac Ninh Province)

8月26日(火) バンコク (セミナー翌日):

※10時30分集合 (変更の可能性あり、最終決定は現地にてお知らせいたします。)

※見学会後、空港に参りますので、チェックアウトください。

- ◆ サムスン電機 (24180 93 Moo 5 Bangsamak Bangpakong Chachoengsao)

いずれも、会場ホテルのロビーにご集合ください。

# アジア・国際経営戦略学会入会のご案内

## 【学会の目的】

アジア・国際経営戦略学会は、アジア諸国での企業の国際的な戦略行動に関心を有する、わが国およびアジア各国の研究者、実務家、学生、企業などの団体に対して、アジア・国際経営戦略の諸問題について総合的な研究を促進・啓蒙・普及・教育する事業を行い、アジア・国際ビジネスの発展と公益の増進に寄与することを目的とします。

## 【事業】

アジア・国際経営戦略学会は、学会の目的を達成するため、次の事業を行います。

- 研究発表会の開催および研究助成等による、アジア・国際経営戦略に関わる学術調査・研究事業
- 講演会・セミナーの開催等によるアジア・国際経営戦略に関わる啓蒙・普及・教育事業
- 研究成果を公表するための雑誌発行とそれに関わる編集事業
- その他、この団体の目的達成に必要な事業

## 【会員種別】

- (1) 個人正会員 本学会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 団体正会員 本学会の目的に賛同して入会した団体
- (3) 個人準会員 本学会の目的に賛同し賛助するため入会した個人
- (4) 団体準会員 本学会の目的に賛同し賛助するため入会した団体
- (5) 学生会員 アジア・国際経営戦略を学ぶ高等教育機関在籍学生個人
- (6) 名誉会員 本学会の目的に賛同し、本学会が推薦する個人

## 【入会資格】

会員の入会については、特に条件を定めていません。アジア諸国での企業の国際的な戦略行動に関心を有する、わが国およびアジア各国の研究者、実務家、学生、企業などの団体であれば、どなたでも参加できます。

## 【入会手続き】

電子メールにて学会事務局宛 ([aibs@saibs.org](mailto:aibs@saibs.org)) に、学会入会申し込みであることを明記し、ご氏名、ご所属、郵便番号、住所をご連絡ください。ご連絡後、郵便振替口座番号 (00120-5-373167、アジア・国際経営戦略学会) または、ゆうちょ銀行 (金融機関コード 9900) 〇一九店 (ゼロイチキユウ店、店番 019) 当座預金口座 (口座番号 0373167、アジア・コクサイケイエイセンリヤクカクツカイ) まで所定の会費をお振込みください。手続き完了後、学会定款などをメールにて送信いたします。

## 【会費】

個人会員 (正会員/準会員とも)	1 万円 (お一人様)
団体会員 (正会員/準会員とも)	5 万円 (お一口)
学生会員	3 千円 (お一人様)

## 【研究部会】

アジアビジネス研究部会：アジア・中国での日本企業の戦略行動を深く研究し、直面する課題への対応や新たなビジネスモデルの探索を目的とする

アジア生産性人材開発研究部会：アジア・中国地域における環境・資源エネルギー・食糧問題などのマクロな動向を展望し、同地域で事業展開する企業における、生産性の向上とそれを支える人材の育成に関する実践方策の探索を目的とする

ABC/ABM研究部会：企業の長期に渡る維持と発展の基盤となる財務構造を分析し、そのための経営政策を検討する戦略会計領域での重要な分析手法となるABC/ABM (活動基準原価計算/活動基準管理) を用い、アジア・中国地域に展開する日系企業の財務構造を分析する。

コンテンツビジネス研究部会：成長が期待されるコンテンツビジネスの戦略を分析する。この分野の発展には、アジアとの共生、とりわけ日中で連携して中国・世界市場を睨んだコンテンツの開発が必要となる。このビジネスの展開を知的財産、ファイナンス、マーケティング等の側面から検討する。